

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 まいづる)

事業所番号	0670801109		
法人名	株式会社 ケアサービス鳥海		
事業所名	グループホーム まいづる		
所在地	山形県酒田市麓字横道10-8		
自己評価作成日	平成21年 7月29日	開設年月日	平成18年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では特別のことはしていないが、アットホームな施設を目指して頑張っています。人それぞれの喜びや悲しみ、人それぞれの悩みや不安を家族として共感し合えるように、入居者とのふれあいを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の有料老人ホーム、デイサービスセンターが併設されており、建物内を行き来できるようになっており、行事や催物等を通して交流がなされています。又、緊急時や夜間に職員同士の協力、連携もうまくとれ日々の安心につながっています。利用者一人ひとりの個性を認め、喜怒哀楽を受けとめ、日々の関わりを大切に職員と利用者全員が「大家族」のようで、施設が目指している「アットホーム」な雰囲気が感じられ、利用者がより安心してケアを受けられる体制を作りあげているホームです。

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 8月 7日	評価結果決定日	平成 21年 9月 3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	《心地良い空間に 笑みと安心を！》基本理念を掲げ、職員一丸となり取り組んでおり、尊厳 安心 楽しい 自立した生活 安全で健やかな暮らし なじみの暮らし をケア目標とし、当たり前の日常生活が送れるよう援助に当たっています。	開所時に職員全員で考え、決めた理念で身近でわかりやすく、日々のケア目標として職員全員で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、区費を納めており、地区の路肩清掃に入居者と共に参加したり、毎月2回地区婦人部の方々(4~5名)が来設しキーボード演奏しながら昔懐かしい歌を大きな声で歌う等、地域とのふれあいに努めている。又、火災避難訓練時には、消防署は基より地区消防団の協力も得られ、今後も地域に根ざした施設となるよう心掛けている。	地域との交流に力を入れており、ボランティアの訪問や避難訓練時には地元消防団の協力もあり、近所の人の通報で事なきを得たこともある。施設主催の夏祭りやクリスマス会には地域や家族会の参加協力もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の登校隊が施設脇の歩道を毎朝通学しており、「おはよう・行ってらっしゃい・気い付けでの」等毎日のように声掛けながら見守っている。又、施設の先にある大きな較差点には、可能な限り職員が交通安全の街頭指導を行い、地域貢献に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意見交換の中で、他施設で起こった離棟後に松林で死亡した事故について、行政担当職員より捜査時に写真が無いため捜査困難だったと伺い、当施設も常に所在確認と安全確認には努めているが、離棟の危険性がある方については写真と身体的特徴をセットにして実際ファイルに準備している。	運営推進会議は、市の担当者、民生委員、利用者代表、家族会代表、施設から代表、部長、管理者が出席して2ヶ月毎に開催され、日々の暮らしぶりや相談事が報告され、意見交換により、サービスの質の向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在3月末に入居した方が、帰宅願望が強く離棟の危険性も高いため、行政担当に状況説明行う等相談したところ、直ぐに来設していただき本人に面談、その後いくらか落ち着き効果は得られたようでした。	市の担当者とは定期、不定期に連絡や相談窓口として、密に交流し、情報を共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	見守りが確実に得られる時間帯は、玄関を開放して行動を共にしたり安全確保に努めている。	職員は利用者一人ひとりの行動パターンやちょっとした変化を把握し、希望する外出には声がけしながらさりげなく付き添い、安全面に配慮し地域の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	酒田市 高齢者虐待対応マニュアル を職員に説明行い、閲覧している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は受講しているが、活用する事例が無く経過している。機会があれば、研修参加やし施設内研修等を検討したい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解と同意が得られるよう説明には努力している。計画の内容に変更があった場合も、十分な説明と理解・納得が得られるよう努力するつもりである。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等を表現できる機会を設けているつもりではあるが、毎月酒田市より介護相談員が派遣され利用者や家族等と触れ合いながら、生活に対する不満や要望等伺い、伝えてもらい、不満等があれば必要に応じ速やかに対応するよう努めている。又、その結果を翌月に報告している。	家族会があり、夏祭りやクリスマス会等に参加、協力を得ています。玄関には意見箱が設置しており、市の介護相談員の受け入れや家族等の面会時の何気ない会話から要望や不満を聞きだし対処するように努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前年度までは、毎月1回全体会議を開催し、役員間における意見交換の場としての機会を設定していたが、マンネリ化で時間の無駄であるとの職員からの声により、実施方法を検討中である。ただし、管理者が職員の意見をまとめ、代表者に提言等を行うようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を完全に満たすことは困難であり、評価基準についても見解の相違があると思われるが、許される範囲内において徐々にではあるが、給与水準等労働条件の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の重要性は十分に認識しており、できる限り研修の機会を確保するように努めているが、人手不足等により時間的余裕がない現状である。	県、市主催の研修会には職員が交替で出席するようにしており、その内容を報告書に記録し、職員全員で共有している。又、職員の資格取得にも協力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市介護サービス連絡協議会の研修を介し、他施設の意見等情報収集し参考にしながら実施している。又、グループホーム庄内ブロックの連絡会議にも参加し、情報収集に努めている。	県、庄内ブロックのグループホーム連絡会議に参加し、又、若い人の研修に力を入れ情報交換し、日々のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在に至るまでの生活暦や一番身近な援助者又は家族より情報収集を行い、事前面談を通しコミュニケーションに心掛け、信頼関係が築けるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期相談時から、家族が本当に困っていることや利用者の状況を安心して伝えられるよう雰囲気作りを心掛け、その後の面接に向け家族の思いを受け止める努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既に面接段階において、確実に援助を要するケア内容について、サービスを開始する時点で暫定プランを設定し、開始時家族への説明と同意を得た上で援助行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、日常生活を共にしながら様々な人生経験をヒントに職員も支えられている、という意識を持って接するよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の出来事の中で、試行錯誤しながら解決に結びつかず困ってしまった場合、家族の協力を得ながら意見を求めたり直接本人と共にどのようにして欲しいか等、検討し支え合えるような関係づくりに心掛けている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前に住んでいた地域の民生委員の方々が、「元気であるかー」等と時折面会に来てくれるため、いつでも快く迎えられるような雰囲気づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に中立公平な立場を基本とし、一つ家に暮らす家族として状況把握に努めながら、お互いに命を大切にし、支え合えるよう心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し特別養護老人ホームに移った方への面会を、利用者と共にドライブを兼ね出かけたり、家族と会った際には「変わりなく、元気にしていますか？」など、必ず声を掛けるよう心掛けています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿い、室内のベットや家具の配置換えを手伝ったり、係わりを深め行動パターン把握に努めながら、本人の意向を洞汲み取れるよう心掛けている。	利用者一人ひとりの行動パターンの把握を工夫し、ちょっとした変化や気づきを職員全員で共有して、安全面に配慮しながら、本人の希望や意向を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を把握した上で、コミュニケーション図りながら更に当時の状況をわかる範囲で確認し、その方にとって何が安心して穏やかに生活出来るのか、現在に至るまでの生活史を把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしさを把握しており、いつもと違う状態など無いか職員間で情報交換を行い、何かのシグナルを発していないか現状を常に観察し、安定した生活が送れるよう見守りしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その課題のカンファレンスにおいて、職員一人ひとりの意見を交換し合いし、よい案があれば即実行し、上手くいかない場合は再度検討しあうなどチームで実施している。	介護計画は定期的に3ヶ月に一度、変化があればその都度見直されている。担当制は決めてはいるが利用者一人ひとりに職員全員が関わりを持ち、気づきを共有し、それぞれの意見を反映した介護計画を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護経過と生活記録に分けており、各項目ごとに気づきの点や状況を記録し、その内容を踏まえながらモニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>食材の買出しに利用者と共に出かけ、カートを押してもらいながら店員さんとも馴染みとなり日常会話を楽しんでいる。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診や緊急時の受診介助を行い、健康な日々が送れるよう援助している。家族には緊急受診必要時、事前に常態説明を行い理解を得た上受診介助を行っている。又、受診後は結果報告と今後の予定等報告しコミュニケーションに努めている。</p>	<p>定期受診や緊急受診を含めて、家族等への説明と理解を得ながら職員付き添いで行い、情報を共有しながら、支援ができています。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護資格を有する職員が従事しており、又、隣接する同一敷地内の他の施設にも看護職員が配置されているので日常の健康管理や急変時などの対応が可能である。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院となった場合は、病状に係わる経過の情報提供書を作成添付し、入院計画書に基づき面会しながら担当ナースより情報頂き経過把握に努め、家族とも随時相談行い対応に当たっている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>これまでの事例は無いが、本人や家族の希望があれば主治医とも相談しながら前向きに検討して行きたいと職員間では話し合っている。</p>	<p>入所時の確認書等は設けていないがその都度、家族等や関係者との話し合いをもち、事業所としての対応方針の共有を図りながら、経口摂取ができなくなった時点の一つの目安と考え取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一応マニュアルもあり職員にも周知徹底を図っているが、予測し得ない事故も多く発生している。幸いにも事故に至らなかったヒヤリハットの事例を検証し、事故防止や対応策をあらためて検討し合っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設敷地内の裏手に公園があり緊急避難所となっており、その向側には地区公会堂がある為、区長を介し災害時など非難場所として使用できるようお願いしてある。	昨年10月には、18時30分からの夜間想定で消防署、地元消防団の協力を得て行っている。時間帯が日中とちがって地域の人からの協力が得られ、今後の実践的な取り組みになお期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が安心して生活できる場であり共に家族として支え合いながら、個々のプライドやプライバシーを侵すことの無いよう配慮し、皆で笑い合いながら日々過ごして行ける様努めている。	利用者の心の中には、誰も帰宅願望があり、不安を取り除き落ち着いて楽しく過ごしてもらう為に、アイデアを出し合い安心してもらい、職員と利用者の密な関わり、支援がみえます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ドライブを兼ね外食する際は、あらかじめ施設よりメニューをFAXしてもらい自分の食べたいものを選択してもらったり、散歩途中に飴玉提供する際、ボックスより自分好みの飴を選択できるよう等援助行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は起きだぐねがら・・・」本人の意思決定を尊重し居室で食事のセッティング援助したり、他利用者が入浴しているのを見て「俺も今風呂さ入る」等の希望があった場合は、本人の要望に応え入浴してもらう等対応に当たっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の着替えを準備する際は、「どの服着る？」と声掛けながら一緒に準備したり、「パーマ屋さんさ電話してける」等の要望あった場合は予約電話行ったり、その人らしく生活出来るよう援助している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に行き、大葉やパセリ・アスパラ等、利用者と共に収穫しちぎってもらったり包丁で切ってもらったり、一緒に味見し「美味しいのー」とかコミュニケーションを図りながら常に後片付けまで一緒に行なうよう努めている。	法人内からの朝夕の食事提供があり、昼食は職員が交代で献立を作成し、利用者の手伝いもあり、時々畑からの野菜類が食卓にあがったり、又、皆の話し合いで出前をとったりと、ゆったりした時間の中で楽しい食事ができている。	スペース的にも少し狭さはうかがえるが、利用者と職員が同じ食事を共にし、テーブルを囲めたら、なお一段と楽しい食事が期待されます。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通し、メニューを決める段階から食材を豊富に取り入れ、バランスが保てるよう工夫を行い、水分補給時もお茶やコーヒー等飲みたいものを選択してもらい、気軽にお替りできる雰囲気で行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを声掛け実施している。一人ひとりの口腔内の把握と実施能力に応じ援助を行い、トラブル時は家族と相談し、早期の歯科受診にて悪化防止に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄機能能力や排泄動作を把握を行い、オムツはなるべく避け個々の排泄パターンを確認しながら失敗による屈辱感を回避するよう心掛け援助を行っている。	オムツへの移行をできる限り少なくを職員間で共有し合い、夜間ポータブルトイレ使用中に、共に転倒という事例にもすぐ片付ける方向ではなく、ベットとポータブルを固定するなど、安心感と意欲や自信回復へつなげる橋渡しを職員全員で行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、一人ひとりの排便パターンを記録しながら医師の指示のもと、個々に応じた下剤を用いコントロールを行なっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全体的なバランスを考え、体幹清潔保持に努め定期的な入浴を心掛け、本人の希望及び体調等を考慮しながら随時入浴を組み合わせ対応に当たっている。	入浴剤や季節感をとり入れた菖蒲湯等を試みたり、利用者同士気の合う2人が共に入浴したり、又、入浴拒否者にも時間をかけ、何が原因でそうになっているのかを職員間で共有し、焦らず見守りながらの支援がうまくできている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの要望に応え、照明の調節や空調管理等を行い、好みの環境整備に努めながら安眠休息を支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾病状況や服薬情報を個人ファイルに表示しており、ドクター指示にて変更や調節等あった場合は職員連絡事項に記載し、様子観察強化を行い状態把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気を見ながらその日の状況に応じ、外でお茶する場合は利用者と共に椅子とテーブルをセッティングし、外の景色を見ながらシャボン玉吹いたり気分転換に努め援助に当たっている。又、通りがかりのベビーカーを引いたお母さんに声掛けし立ち寄ってもらい、一緒にお茶を飲みながら乳児をあやしたり近隣住民ともふれ合っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い日などアイスクリームが食べたいとの要望に応え、皆でいっせいに地区の産直へ出かけ、採れたての山菜・野菜・切花等見学し、山菜の名前を思い出したり食べ方等を利用者に聞いたりし、最後に玄関脇のベンチに腰掛て鳥海山を眺めながら地域の方々とも挨拶を交わしソフトクリームを食べたり、職員も共に楽しみながら援助行っている。	天気の良い日は、毎日午前中全員で散歩に出かけ、往復時には、近くにある保育園園児や小学生、地域住民との声かけ挨拶が欠かさず行われ、ほのぼのとした中での、地域との関わりの濃さが見える。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏用の下着と衣類が足りないとの事で、預かっているお金を持って、自分好みのTシャツとズボンと下着を職員と共に買う等したり、散髪と顔そりの代金を自分で支払ってもらうなど見守りを行なっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「眩暈してあんべ悪いがら、娘さ電話してくれ」との事で本人の依頼により用件を伝えたり、「電話掛けたいけど掛け方教えて下さい」との希望あれば、随時援助行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手狭ではあるが、食堂からは畑越しに麓の山並みが望め自然豊かで季節感を表してくれる。又、南北に走る廊下が吹き抜けとなっており天窓より採光得られ風通し良く明るく爽やかである。又、玄関右脇には入居者と植えたさまざまな草花が植えてあり、3段の階段にスロープが無いためその分職員が随時安全確認の基昇降介助に当たっている。	フロアはスペース的に少し狭さも感じられるが、全員の笑顔が見られ、家庭の延長線上にあり、居室窓からは、周囲の山々や公園が見え、季節を感じながらの関わりができています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間として狭いことは確かであるが、部分的にソファ設置したり畳の部屋には座卓を置き自由に過ごせる様工夫を凝らし対応している。（近い将来、共用空間拡大工事を検討中である）			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室もクローゼットは広く窓から風が流れ、それぞれ個人差はあるものの自分好みに配置したり、ゆったり穏やかに過ごせるよう援助している。	利用者一人ひとりの出来る事、やりたいことを優先し居室も個性がみられ、それぞれに配置がえがあったり、安心して過ごせる環境づくりができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室場所が理解できるように名前を大きく張り出し、自分で自室まで行ける様見守り声掛け行なったり、入浴前に髭剃りと鏡を渡し、見守りのもと自力で髭剃りができるよう、安全性に配慮しながら援助に当たっている。			